

『仲間と、いつでも、ピア・サポート』

藤枝市立瀬戸谷中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に 据えた行事	プログラム	職員研修
4月	・1年生を迎える会	・学期目標を立てる中で、ピア・サポートを意識する。 ・縦割りの仲を深める。	・本校におけるピア・サポートの考え方を全職員で共通理解を図る。
5月	・せとやっこ総合ガイダンス	・1年生から3年生までの縦割りで総合学習を行う。	・ピア・サポートの定着に向け、生徒の見取りを意識する。
6月	・小中合同学活 ・小中合同学校保健委員会 ・ピア・サポートトレーニング①	・小中の縦割りでグループを作り、小中合同体育祭の目標を立てる。 ・小・中学生合同で、良好な人間関係やストレス対処法について学ぶ。 ・相手を意識した聴き方を学び、実践する。	・掲示やお便りで発信する。 ↓
7月	・音楽祭 ・小中合同せとやっこ体育祭結団式	・合唱の練習や発表を通して、クラスの絆を深める。 ・中学3年生が中心となり、小中学生の縦割りで活動を行う。	↓
8月		・学期目標を立てる中で、ピア・サポートを意識する。	・ピア・サポート研修会の伝達講習
9月	・健康専門委員会による『ピア・サポート』メッセージ ・体育祭に向けた小中合同練習	・仲間に対して思いやりあふれる温かなメッセージを送り合うことで、良好な人間関係を育む。 ・小1～中3までの縦割りで体育祭練習を行う。	・生徒の活動について掲示やお便りで発信する。 ↓
10月	・小中合同せとやっこ体育祭	・小1～中3までの縦割りで体育祭を行う。	↓
11月	・せとやっこ総合発表会 ・ピア・サポートトレーニング② ・地域の産業祭「せとやまるかじり」	・全校で総合的な学習の時間の成果を発表し合う。 ・全校で地域に向けたピア・サポートな姿を考え、実践意欲を高める。 ・地域や来場者との交流を深める。	↓
12月	・サロン交流会	・地域の高齢者との交流を深める。	↓
1月	・新入生説明会	・1年生が新入生に部活動や学校生活等を工夫して説明する。	・生徒の活動について掲示やお便りで発信する。 ↓
2月	・専門委員会での振り返り	・各委員会の活動をピア・サポートの観点から振り返り、次年度の活動に生かせることを提案する。	↓
3月	・3年生を送る会	・在校生が協力し合い、卒業する3年生に感謝の気持ちを表わす。 ・ピア・サポートの観点から1年を振り返る。	↓

1 本校のピア・サポート

瀬戸谷地区では、小中一貫の学校教育目標として「自立 共生 成長実感」を掲げている。この目標を達成するために、普段から「積極的なピア・サポート」を行っていくことを意識して取り組んできた。自分から相手に関わろうとすることで、温かな雰囲気と思いやりあふれる生徒の育成を目指した。

また、H27年度の生徒会が、瀬戸谷中学校オリジナルのピア・サポートキャラクター「瀬ピア」を作り上げた。現在では、小中学生が使うトートバックや挨拶運動ののぼりなどにもつけられ、瀬戸谷のピア・サポートの象徴になっている。



2 特徴的な活動

(1) せとやっこ体育祭<提言4・6>

小学校と中学校が合同で行う「せとやっこ体育祭」も、今年で11回目を迎えた。今年は、「協力し 心つながる体育祭」をスローガンに小中学生が一体となって競技や応援、係活動に取り組んだ。スローガンや競技は、小学校5・6年生が登校する日に合同学活を設定し、小中学生が一緒になって考えた。生徒会が主導し、「どんな体育祭にしたいか」「せとやっこ種目（小学校1年生～中学校3年生が参加する競技種目）でどんな競技を行いたいか」、グループに分かれ、話し合った。生徒会は、小学生が話し合いに入りやすいように「小学生にも意見があるか、ちゃんと聞いてみよう」と事前に呼びかけ、合同学活の時間が充実した時間になるように取り組んだ。

また、せとやっこ種目は生徒会と児童会が本番までの3ヶ月間、昼休みにもTeamsを使って打ち合わせを重ねた。本番では中学生が小学生に合わせて腰をかがめながら走る姿や互いに励ましの言葉をかける姿が見られた。9学年と一緒に競技に向かう中で、相手の立場に立って物事を考えたり、声かけしたりすることができ、スローガン達成の実感を得ているようだった。

(2) 地域のサロンとの交流<提言8>

本校では、3学年の縦割り集団を2つの隊（太鼓の演奏を行う「和太鼓実演隊」、瀬戸谷の魅力を発信する「瀬戸谷ふれあい隊」）に分け、「せとやっこ総合」と呼ばれる活動を行っている。地域のサロンとの交流会では、5月から取り組んできたせとやっこ総合の活動の成果発表を行った。各隊が演奏とプレゼンテーションを使った発表を行うと、サロンの方々から盛大な拍手が送られた。温かな雰囲気に、生徒は喜びや大きな達成感を得ることができた。また、来校した際には生徒がサロンの方々を気遣って、履き物を用意したり、手を引いて席まで案内したりする姿が見られた。交流を通して、高齢者の方との接し方を学び、福祉の心を育む機会となった。



3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度は、様々な相手と関わる中で、思いやりの心を持ち、自ら相手に関わろうとする姿が多く見られた。12月に行った学校評価アンケートでも、「ピア・サポートを意識した生活ができている」と答えた生徒が92%を占めており、多くの生徒が意識的に普段から温かな関わり合いをできているようだった。しかし、「私には良いところがあると思います」と答えた生徒は76%にとどまった。生徒の自己肯定感を高めるため、「聞く」「話す」といった基本的なスキルの向上に継続して取り組みつつ、ピア・サポートの質の向上のため、レジリエンス力や課題解決力の向上を目指したソーシャルスキルトレーニングにも取り組んでいきたい。また、瀬戸谷地区は地域の方の学校教育への理解が深いため、地域の教育力を積極的に活用し、多様性への理解を深めたり、相手を尊重しつつ、自分の思いを伝えるスキルを養っていきたい。